



キャンドルのつどい

活動名	キャンドルのつどい			
概要 (セールスポイント)	<p>ロウソクの炎を囲み、ゲーム、ソング、ダンス、スタンツなどを行うことで連帯感や友情を深めることができ、研修の始めの方に実施すれば緊張をほぐし、親睦を深める効果があり、最後に実施すれば研修のまとめや自己を深く見つめる場になります。</p>			
諸条件	場所	体育館・各研修室	対象	小学生以上
	所要時間	60～90分	人数	20～300人
	時期	通年	天候	いつでも可
活動の 教育的効果	<p>(1)ゲームやスタンツを通し、友情と親睦を深めることができます。 (2)静寂の中煌々と燃える火を見つめながら、自分の心を見つめ直すことができます。 (3)キャンドルのつどいの企画や運営を通し、リーダー性や協力性を養うことができます。</p>			
準備する物	青少年交流の家で貸出し可能な物		団体で準備する物	
	<input type="checkbox"/> 火の神衣装・つえ <input type="checkbox"/> 延長コード <input type="checkbox"/> CDデッキ <input type="checkbox"/> ポータブルアンプ・拡声器 <input type="checkbox"/> 手持ち燭台(中心用特大4・大30・小250)		<input type="checkbox"/> CD・カセット <input type="checkbox"/> ロウソク(レストランに注文、持込み可) <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> マッチ	
活動内容 (手順)	所要時間	項目	内容	備考
	事前	・役割分担	<input type="checkbox"/> 役割を分担する(①)	
		・安全指導	<input type="checkbox"/> 燭台の針に注意(目の高さにあります) <input type="checkbox"/> 火を取り扱う事についての注意喚起	
	30分	CSの準備(①)	<input type="checkbox"/> 食堂でロウソクを受け取る <input type="checkbox"/> 研修室に燭台を運び、セッティング	
	90～ 120分	CSの展開例(②)	<input type="checkbox"/> 第一部(迎火のつどい) ・入場、開会 ・歌「遠き山に日は落ちて」斉唱 ・聖火入場(火の神入場) ・火の神の詞、分化、点火 ・歌、閉会	※歌「四季の歌」「ふるさと」等
			<input type="checkbox"/> 第二部(交歓のつどい) ・レクリエーション、スタンツ ・歌(心にしみるような静かな歌)	
<input type="checkbox"/> 第三部(送火のつどい) ・歌「一日の終わり」斉唱 ・誓いの言葉 ・火の神の詞 ・送火、うた(今日の日はさようなら) ・火の神退場、閉会			※消火確認	
20分	片付け(①)	<input type="checkbox"/> 消し忘れがないか確認する <input type="checkbox"/> 燭台とシートを元の場所へ戻す。 <input type="checkbox"/> 床に落ちたロウを片付ける。		
想定される リスク	<input type="checkbox"/> 怪我(準備段階で燭台を足に落とす、燭台の釘で怪我をする) <input type="checkbox"/> やけど(衣服に火が燃えうつる。ロウが皮膚につく) <input type="checkbox"/> 火事(乾燥期などの天候を最大限考慮する) <input type="checkbox"/> 転倒(暗闇の中のレクリエーションや出し物)			

※①、②は資料番号を示す

キャンドルのつどいの準備と片付けの流れ

<p>1</p> 	<p>2</p> 	<p>3</p> 
<p>事前に注文したろうそくを食堂に受け取りに行きます（食堂職員に声をかけてください）。</p>	<p>事務室で手持ち燭台とブルーシートをお渡しします。</p>	<p>会場の中心にブルーシートを敷き、燭台を置きます。 (写真：剣道場)</p>
<p>4</p> 	<p>5</p> 	<p>6</p> 
<p>燭台の釘の部分にろうそくを立てておきます（釘での怪我に注意してください）。</p>	<p>手持ち燭台にろうそくをさして準備しておきます。 (大30号、小1号)</p>	<p>やけど・火事に注意して安全に活動してください。</p>

	部屋数	人数(約)	大きさ(m)	設備	照明
体育館	1室	500名	54 × 30	カーテン	LED電灯のみ
柔・剣道場	各1	各150名	18 × 18	-	LED電灯のみ
306.307	1室	150~200名	27 × 9	カーテン	蛍光灯のみ
ログハウス 愛鷹	1室	20名	9 × 9	カーテン グランドピアノ	明るさ調整有り

※実施会場や貸出物品に関しては、事前にご相談ください。(企画指導専門職 0550-89-2024)

※大研修室は可動式のパーティションで仕切られているため、部屋の大きさを変える事ができます。

キャンドルのつどいの準備と片付けの流れ

1. 片付けについて

- (1) 燭台をもとの場所に戻す(手持ち燭台は事務室に戻してください)
- (2) シートをたたみ、事務室へ戻す。
- (3) 実施会場にロウが落ちていないか、チェックし掃除をする。
- (4) 最後の方は、会場の消灯を確認してください。

2. 準備品

●交流の家で貸出をしているもの	●団体で準備してもらうもの
<input type="checkbox"/> 火の神衣装、つえ <input type="checkbox"/> 延長コード(ドラム式) <input type="checkbox"/> ポータブルアンプ、拡声器 <input type="checkbox"/> CDデッキ <input type="checkbox"/> 燭台(手持ち大小・中央に置く大のもの)	<input type="checkbox"/> ろうそく(食堂で事前に注文して購入できます) <input type="checkbox"/> CD・カセット <input type="checkbox"/> チャッカマン <input type="checkbox"/> 懐中電灯(必要であれば)

3. 貸出品の例

		
火の神の衣装(赤、白)	火の神のつえ	ドラムコード ポータブルアンプ(CD可)

4. 料金について

- (1) ロウソクの料金・・・小10円、大200円。
- (2) その他……………衣装、アンプなどは無料で貸し出せます。※CD、カセットはご準備ください。

5. 役割分担

役割	人数	内容
①火の神	1	団体を代表する人で、営火の言葉を告げる(営火長)
②火の神の子	1~4	火の神を補佐・誘導し、聖火を運ぶ
③司会者	1~3	プログラムの進行をする
④点火係	4~8	火の神から分火してもらい火をろうそくに点火する
⑤ソングリーダー	1~4	歌のリードをする
⑥誓いの言葉係	2~8	キャンドルのつどいの感想を発表する
⑦準備係	6~10	燭台を設置、営火の準備をし、後始末をする

キャンドルのつどい展開例

【第一部 迎火のつどい】

1. 入場 「皆さん入場してください。」(中心に向かい円になるように整列)
2. 開会 「ただいまより、キャンドルのつどい、第一部、迎火のつどいを始めます。」
3. 歌 「始めに歌を歌います。遠き山に日は落ちて、を歌います。1番は歌詞で、2番はハミングで繰り返します。」
4. 聖火入場 「聖火入場。」(ハミングの途中で入場し燭台の一番高いところへ火をつける)
5. 火の神の詞 「ここで、火の神様のお詞をいただきます。火の神様お願いします。」
(火の神始めの詞参照)
6. 分火 「ここで火の神様から聖火を分けていただきます。点火係になっている人は火の神様の前に出てきてください。(分火の詞参照)
7. 点火 「それでは点火されます。」(火の神の合図で燭台の全ロウソクに点火する)
8. 歌 「火を見つめながら、歌を歌います。」※四季の歌、ふるさとなどを歌う。
9. 納火 「納火に移ります。火の神様、お願いします。」(火の神納火の詞参照)
10. 閉会 「これで第一部迎火のつどいを終わります。」

【第二部 交歓のつどい】

1. 開会 「これから第二部、交歓のつどいを始めます。第二部は皆さんと元気良く楽しくすすめたいと思いますのでご協力ください。私は司会の〇〇です。よろしくお願いします。」
(全体で5分くらい元気な歌や簡単なゲーム等をする)
2. 出し物 「それでは各班のスタンツの順番は△△…の順です。スタンツの最初と最後には盛大な拍手をお願いします。では、△△班お願いいたします。」
(各班の出し物の合間に、5分前後の簡単なレクリエーションを入れる)
3. 閉会 「皆さん、楽しめましたか？これで第二部交歓のつどいを終わります。」

【第三部 送火のつどい】

1. 開会 「これから第三部、送火のつどいを始めます。」
※火の神の子が中心のロウソクから火をもらい、全員に分火する。
2. 歌 「最初に、心を落ち着けて、『一日の終わり』を歌いましょう。皆さん立ってください。」
3. 誓いの言葉 「次に誓いの言葉を発表していただきます。係になっている人は前に出てきてください。」
4. 火の神の詞 「ここで、火の神様より終わりのお詞をいただきます。お願いします。」(火の神終わりの詞参照)
5. 納火 「それでは、火の神の子の皆さんは燭台へ進み、中心の1本を残し、あとは全て消してください。皆さんの持っている火も消してください。」
6. 歌 「最後にみんなて『今日の日はさようなら』を歌いましょう。3番まで歌ったらハミング(ラララ)で続けてください。」
7. 火の神退場 「火の神が退場します。みんなてお見送りをしましょう。」(歌の途中で)

8. 閉会 「楽しいつどいも終わりの時となりました。このキャンルドサービスの喜びや感動をいつまでも胸にいだいて、明日からの学習やスポーツにはげみましょう。これで第三部送火のつどいを終わります。ご協力ありがとうございました。」
(ハミングの途中から)
9. 退場 「△△班から順に、静かに歌いながら退場してください。」

◆火の神、始めの詞

人類は、太古から火と水と土に恵まれここまで来た。若者たちよ、今宵は自然のふところに帰れ。火は神が人間に与えた宝である。人類は何万年の昔から火を崇め祭ってきた。明々と燃える情熱の火、嵐の中を突っ走る闘志の火、協力と団結と友愛の火、皆、私の与えた宝である。我は、今、この地において汝等の幸せを願い、愛の火を授けん。心にこの愛の火を灯して、明るい社会の礎となれ。すべての人の心にこの火を灯せ。燃えろよ燃えろ。照らせよ照らせ。この火を次代の若者たちに伝えよ。我が愛の印として、この火を分かち与えん。

◆分火の詞 ※グループ数に応じて下記より選択してください。

- ①そなたには、友達を思いやる“友情の火”を授けよう。
- ②そなたには、丈夫な体になる“健康の火”を授けよう。
- ③そなたには、よく考え抜く“勉学の火”を授けよう。
- ④そなたには、頑張り続ける“努力の火”を授けよう。
- ⑤そなたには、お互いに助け合う“協力の火”を授けよう。
- ⑥そなたには、運動を楽しむ“スポーツの火”を授けよう。
- ⑦そなたには、汗をかいて働く“勤労の火”を授けよう。
- ⑧そなたには、世の中ののために働く“奉仕の火”を授けよう。

◆火の神、納火の詞

1本の小さな親火から、〇〇本の美しい光の輪ができました。美しい光の輪を作っている小さなともしび、これは、人間だけが使うことのできる火です。わたしたちの祖先がはるかな昔から、絶えることなく大切に守り続けてきた火です。文化の火ともいえるともしびです。そのともしびを目の高さまで上げて、じっと見つめてみましょう。わたしたちの生命もそのともしびと同じように、この地球上に生物が誕生してから、何億年ものはるかな昔から、一度も絶えることなく、親から子へ、子から孫へと受け継がれてきたのです。そのともしびとともに親は今頃はきっと、家であなたのことを考えておられることでしょう。「友だちと仲良くできているだろうか。けがや病気をしていないだろうか。」などと心配していらっしやることでしょう。幼い頃、あなたが病気の時に、夜も寝ずに看病してくれたお母さんや、仕事で疲れて帰ってきて優しく話しかけてくれるお父さんは、口にこそ出さないけれど、あなたが素直な心をもった立派な人間に育つように心の底から願い、努力していらっしやるのです。あなたは、そのようなご両親の気持ちを理解してあげたことがあるでしょうか。わがママを言って困らせたり、口ごたえをしたりして迷惑をかけていませんか。今ここであらためて親に対する自分自身の気持ちを振り返ってみましょう。親のことを考える時、人の心は最も素直になると言われます。その素直な気持ちを胸深くしまの意味でみなさんのろうそくのともしびを静かに消してください。納火！（ロウソクの火を指で消す）

◆火の神、終わりの詞

楽しいつどいも今や終わろうとしている。この火を見つめているうちに、色々なことが心に浮かんでくる。人間一人の力は弱いものである。しかし、我々がそれぞれの力を精一杯に出して同じ目的に向かった時、それは明々とした大きな炎となる。

明日からまた普段の生活に戻り、学習に、スポーツに励むがよい。今宵の炎はいつまでも消えることのない心の灯となり、暖かく、清らかに、そしてたゆみない情熱と前進のために一人一人の心奥深く燃え続けていくであろう。これが、火の神の送る終わりの言葉である。